

人には、とても得意なことがある反面、とても苦手なこともあります。生まれ持った才能や特質、成長の過程で身につけた能力等、一人一人が異なった力を持っています。

今回の事例Bさんについても、Bさんなりの苦手さ、わかりにくさに対して、どのような取り組み方が合っているのかを一緒に探し、気づかせていくことが大切です。

個別の配慮を必要とする子への支援（その3）

一人一人が輝くための支援

☆事例Bさんについて

Bさんは、通常の学級に在籍している小学校1年生です。

学校生活では、とても活発に活動しています。しかし動きが激しく、なかなか全体への指示が入りにくい場面が見られました。教室を歩き回ったり、座っていても椅子を斜めにして、後ろの机に寄りかかったりします。また勝ち負けに対するこだわりが強く、自分の非を認めないところがあったため、友だちとのトラブルが多い毎日でした。

そこで、学校と保護者が連携しながら、これらの課題に対して、スモールステップで指導していくこととしました。

考えられること



○行動調整に課題があると考えました。

- 1) 自分の気持ちをうまく表現することが苦手で、言葉ではなく、行動として出てしまう。
- 2) 自分自身の姿を振り返ることが苦手で、「正しい行動」と「誤った行動」の理解が難しい。
- 3) 相手のペースに合わせて、行動することが苦手。
- 4) 成功体験が少なく、「できた」という実感を持たない経験が少ない。

取り組んだこと

☆Bさんの、落ち着いたある学校生活をめざして、一対一での指導に取り組みました。遊びを通して「見る」「聞く」「止まる」「動く」「待つ」ことを意識して、楽しみながら行えるようにしました。



その1-1

ゲーム感覚で楽しみながら行えるように配慮しました。片足立ちやバランスボールなど、Bさんの様子に合わせて取り組みました。

決められた位置から動かないことを確認。
姿勢を保持しながら、ジャンケン
をスタート！

Point

姿勢を保つことを意識する！
ジャンケンの時は、相手の動きに合わせる！



その1-2

どの方向に動くか指示を聞き、足下の枠を意識しながら動いて、ボールをキャッチする。決められた時間内に、何回ボールキャッチできたか、結果を表にすることで、集中して取り組みました。

指示を聞いて動き、ボール
を見てとらえる。
前後左右に動きながら、
ボールをキャッチ！

Point

指示を聞いてから、正確に
動く！
二つのことを同時に行う！

※その1-1では、あとだしジャンケンも行わせ、わざと負けることを体験させます。こだわりの緩和につなげていくことをねらいました。

※その1-2では、指示を聞いてから動けたことを評価し、自己肯定感を高めていくことをねらいました。

その1-3

ボードの上に腹ばいになり、手でこぎながら進みました。コーンなどの障害物にぶつからないように進みます。毎回、目標タイムを決め、意欲的に取り組める工夫をしました。



ボードから出た自分の
頭や足(つま先)が、障
害物にぶつからない
ように意識して進む
ことが大切です。

Point

腹ばいになり、脚を伸ばしま
す！
自分の体の大きさを感じ取
ります！